

令和2年度 第5回 御殿場市市民協働型まちづくり推進協議会 会議録

日 時： 令和3年3月22日(月)

9:00 ～ 19:30

場 所： [提案会]御殿場市林業会館 第1研修室

[選考会]御殿場市役所 本庁舎3階 大会議室

1 出席者

[御殿場市市民協働型まちづくり推進協議会 委員] ※敬称略

芹澤 直己、岩淵 貴司、渡邊 恵子、児島 洋美、小宮山 なほみ、刈山 祐江、勝亦 恵美子、
立道 佳之、山本 裕一、杉山 清、芹澤 知輝、鈴木 峻介、宮代 志穂、勝又 洋平、勝又 美絵
計 16 名

[御殿場市市民協働型まちづくりアドバイザー] ※敬称略

牛山 久仁彦 (明治大学 政治経済学部教授)

[事務局(市民協働課)]

井上課長、浅野統括、小宮山、小長井

2 提案会 [9:30～15:00]

[内容]

令和3年度御殿場市市民協働型まちづくり事業補助金の審査・選考にあたり、各事業のプレゼンテーション、質疑応答等を実施。「御殿場市市民協働型まちづくり推進協議会」の委員 16 名を審査員として、申請のあった市民提案事業 11 事業(新規 6 事業、継続 5 事業)の審査を行った。

【市民提案事業】

(1) 事業名： 子育て中のお母さんの居場所づくり「いっぽ」事業 [1 年目]

団体名： Motherese(マザリーズ)

市の担当課： 子育て支援課(子ども家庭センター)

[質疑応答]

(委員) 事業収支予算書のプログラム代として、ベビーネイチャープログラム受講費を上げているが、どのような内容か。

(団体) YMCA 東山荘で利用者を対象としたプログラムを提供している。庭での葉っぱ遊びやドングリを使ったおもちゃ作りなど、年間を通じて四季折々のプログラムを提供しているため、全て委託して講座の1つとしてそれを利用したいと考えている。

(委員) 事業収支予算書の雑費について、内訳・内容が分かるように説明してほしい。

(団体) 雑費については、手作りおもちゃ(牛乳パック、アロマ、スプレー容器等)に関する経費が 40,000 円、マジック、テープなどの消耗品が 15,000 円、参加者向けの飲み物代が 36,000 円、その他の消耗品やお菓子代(いっぽ用)などで 23,000 円ほどとなっている。

- (委員) 既に何度か開催されているとのことだが、参加者数はどの程度だったか。
- (団体) 2月に予約制で開催して、事務局含めて6名程度。3月に自由参加で開催したときには、15組程度の親子が入れ替わりで参加いただいた。ママの会には、オンライン参加含めて10組程度、市民会館の和室ではコロナ対策で3組に限定して実施している。会場参加を希望する組が多いので、コロナ対策を万全にしながら実施したいと考えている。
- (委員) 事業収支予算書の会場費 30,000 円について、回数を考えると足りないのでは。
- (団体) 会場として考えている1つの玉穂支所は、協働事業として担当課から申し込んでいただき、無料で利用できる。それ以外の会場からのお声がけもあり、少しこの予算の枠を超えることがあるかもしれない。

- (2) 事業名: 親と子の居場所作り事業〔1年目〕
団体名: 笑まいの場
市の担当課: 子育て支援課(子ども家庭センター)

〔質疑応答〕

- (委員) 団体の構成について、構成員数3名とのことだが、将来的な構想もあり、年間の事業計画も盛りだくさんになっている。事業計画に沿って事業が実施できるのか、また、今後構成員を増やしていく考えはあるか。
- (団体) 元々は2人から始めた団体。協力できることがあればとおっしゃっていただける方もおり、仲間が増えていけばいいと考えている。
- (委員) 団体の目的としては必要な事業だと思うが、収支予算書に分からないことが多い。収入では参加料1,800円で25名分としているのに対して、支出では報償費を3,000円が3回で12か月分としているが、事業計画を見ると毎月5件程度は講座を開催することになっており、60回以上を予定していることになっているが、実際の講座の参加料はどのようになっているのか。
- (団体) 収入の1,800円を25名分というのは、代表自身が講師となって講座を開きたいと思っている金額。イベントがない月など、人が集まりにくい月を狙って、年間5回、5名を定員とした講座を考えている。既に行っている講座では一人当たり2,000～2,500円程度の参加料をいただいている、そこから講師料も支払っているが、講師料を予算から出すことで、その分参加者負担を減らしたい考え。実際には開催回数が多いのでこれ以上の額が必要になるが、報酬の上限が定められているためこの額としている。
- (委員) それぞれの講座で定員を5名程度としているが、この参加者は、学校や教室に行きにくい子どもを持つ保護者が対象になるのか。
- (団体) そのように限定はしておらず、興味のある子育て中のお母さんや、おじいちゃん、おばあちゃんなど子どもに関わっている方に参加してほしいと考えている。

- (3) 事業名： みくりや蕎麦 アフターコロナの活用推進事業〔1 年目〕
団体名： チーム FRF
市の担当課： 農政課

〔質疑応答〕

- (委員) この事業は耕作放棄地対策から地場産品の育成、観光情報の発信など、非常に波及効果の高い事業だと思う。景観形成という面は意識しているか。
- (団体) 景観形成は非常に大事なことだと考えている。今までの団体の活動としては、水かけ菜の派生としてつぼみ菜を作った事例では、裏作でひまわりをつくるなどした。そばについては、周辺の草刈りを徹底して荒廃した農地を除去するだけでなく、そばの花自体が非常にきれいで、10 月頃に満開になるそば畑は観光資源としても価値があると考えている。
- (委員) 事業収支予算書の乾麺製造 240,000 円について、そばの乾麺製造となっているが、内訳をもう少し詳しく示すことができないか。
- (団体) みくりやそばの乾麺をつくるためには、大和芋との配合比率が非常に重要で、またそれによって製造に要する経費が大きく変わってくるため、製造業者とも調整したが、難しい。
- (委員) 「みくりやそば」の商標との兼ね合い問題ないか。
- (団体) 確認はまだできていないが、進めていきたい。
- (委員) 乾麺製造について、御殿場農協との協力・参考にできるところなどはどうなっているのか。
- (団体) 今回の乾麺の製造にあたって、製麺業者は御殿場農協で当時乾麺の製造を主導された方の情報提供でやっている。ただ御殿場農協としては、そばの栽培の定着に一度失敗しているという経緯もあり、あまり深入りし辛いという話を聞いている。組合長にはぜひ連携してやっていきましょうという話をしているが、市役所や御殿場農協を含めた協業の体制づくりはこれからの取り組みになる。
- (委員) 市内全体の 10%に迫る農地が遊休化しているとのことで、生産者サイドとマッチングして進めていくようだが、生産者側のニーズの見込みはどの程度あるのか。
- (団体) 一番大きな団体としては、そばに特化した「アグリモンキー」という団体があるが、ここでは東京ドーム 5 個分ぐらいまでは取り組める見込み。その他にもやっても良いと言っている方もおり、それらを総合していくと、約 180ha の遊休農地をすぐに全部というわけにはいらないが、販路などが整うことで、これまで手を付けてこなかった方もやろうと考えたり、既存の農家にやりませんかと提案に持っていくことができると考えており、この約 180ha という数字は達成可能なものだと考えている。
- (委員) テスト品はどの程度づくり、配布先としてはどこを考えているのか。また、実際に乾麺を販売となった場合、どの程度の値段をつけるのか。
- (団体) 今打ち合わせをしている見積りベースでは、500～800 食ぐらいのテスト製造ができる。特に蕎麦に特化しているアグリモンキーさんに告知とアンケート調査の主体になってもらうつもりではいるが、蕎麦の事業者や行政からもアンケート配布・回収等に協力してもらいたいと考えている。値段については、安くない値段にはしたいと考えている。食品として売るというよりは、情報商品として売るということを考えると、少し高めの設定にしていくべきだと考えている。

- (4) 事業名： 御殿場・小山フードバンクプロジェクト〔1年目〕
団体名： 御殿場・小山フードバンク協議会 御殿場支部
市の担当課： 社会福祉課

〔質疑応答〕

- (委員) 事業収支予算書の配布チラシ代として、協力団体への結果報告書を3回発行するとのことだが、1回ずつ行うよりもまとめて行った方が経費はかからないのでは。また、記念品代として協力団体への感謝状とあるが、こちらも毎回発行するのではなく、例えば長く継続して協力いただいた団体にお渡しの方がよいのでは。
- (団体) 結果報告書は、当初は安価で対応可能なネット印刷業者の利用も考えたが、スキャンデータの劣化等も考えると、地元印刷業者へ依頼したいと考えている。またこの報告書は「思いやり新聞」としてボランティアで参加してくれた子ども達で作るもので、協力していただいた方に読んでいただき、また次に事業を行うときに取り組みを紹介するために使いたいとも考えているため、事業毎に作ることが大事だと考えている。
- また、感謝状については、協力いただいた事業者にとっての「協力した証明」となり、またそれが重なることで、企業としても参加した厚みが増していくと思うし、アピールする手段として使えるものだと考えているため、こちらも毎回発行したい。
- (委員) 事業名が「御殿場・小山フードバンクプロジェクト」となっているが、小山町との関りはどの程度あるのか教えていただきたい。この補助金を受けて実施する事業の対象は、全て御殿場市民になるのか。
- (団体) 今回この補助金を利用するにあたり、資金面、また活動面においても、明確化するために、形態として頭には「御殿場・小山フードバンク協議会」を置き、その下に「御殿場支部」「小山支部」をつくった。フードバンク事業としては合同で行う形になるが、その先の配布などについては、それぞれの社会福祉協議会と個別にやり取りをしており、御殿場の分は御殿場に使用できるような体制になっている。
- (委員) 活動の周知について、規約等を見ると独自にHPをつくりそこで紹介するとしているが、他に社会福祉協議会や市などの媒体を使って、フードバンク事業をどのように周知していく考えか。
- (団体) 活動の周知については、社会福祉協議会の発行する冊子や、御殿場 GoGoFM での告知・PRなどを進めている。ただ、この事業についてはオープンにしすぎるのもどうかと考えていて、支援を必要とする世帯が手上げをしやすい環境はどのような形か、手探りをしながら常に考えていかなければいけない。
- このため、事業を行ったという情報発信は積極的に行っていきたいが、改めてその方法については考えていきたい。

- (5) 事業名： 令和の世によみがえる御殿場馬車鉄道復元プロジェクト〔1 年目〕
団体名： 御殿場馬車鉄道研究会
市の担当課： 社会教育課

〔質疑応答〕

- (委員) 説明の冒頭で、車両復元プロジェクトに係るクラウドファンディングが達成したとあったが、いつ頃車両の復元を行う考えなのか。
- (団体) 車両の復元については、令和 3(2020)年内に復元してお披露目することをクラウドファンディングで約束しているため、年内に完成させる計画となっている。
- (委員) 事業計画では令和 4 年度にはツアーなども計画しているが、方法としては市の支援を受けて行うのか、独自に実施する計画か。
- (団体) 事業の主体は団体で、市はサポートでお願いしたいと考えている。また、市内で活動する様々な団体とも協力して行っていききたいと考えている。
- (委員) 馬車鉄道の歴史などについて、非常に魅力のあるものだと思うし、市だけではなかなか調べられないことで、そういった面でも協働の意味があると思う。説明の中で「他の地域の馬車鉄道」とつながりを持って述べられていたが、どの程度他地域の事例があるのか。
- (団体) 全国として資料として残っている馬車鉄道が 50 前後ある。既に神奈川県小田原市の箱根登山鉄道(前身が路面電車、更にその前が馬車鉄道)とはお話をさせていただいており、もし車両が復元出来たら小田原の方でも貸してもらいたいと言われている。歴史的経緯から、日本において馬車鉄道が活躍した期間は短く、資料も少ないので、関連する地域と勉強会、サミットのようなものができればとも考えている。
- (委員) 講演会の開催を計画しているとのことだが、いつ頃行う考えか。また、事業収支予算書に書かれた「活動協力者」はどのような方なのか。
- (担当課) 講演会は年度内に 1~2 回計画している。協力者については、車両のサポートや現地で行うガイドツアーとして協力いただく各種団体のスタッフを想定している。

- (6) 事業名： 富士山厨房みくりや飯〔1 年目〕
団体名： 富士山厨房みくりや飯実行委員会
市の担当課： 観光交流課

〔質疑応答〕

- (委員) 2 月に行われたイベントを見て、食文化の振興を通じて皆が笑顔になるということで実施していくと理解できたが、今後繰り返していく中で、観光や誘客に繋げていくことも意義があると思う。今後のスケジュールの中で食と御殿場市を繋げていく取り組みとしていく旨が書かれているが、何か具体的なイメージを持っているのか。
- (団体) 御殿場で採れる食材を使用したり、インターネットを活用して販売をしていくなど考えがあるが、市民が知らない地元のお店を知る機会となったり、市外からの観光客の誘客に繋げていくことができればと考えている。
- (委員) 地産地消や観光客の誘致に繋げていっていただきたい。

- (委員) 年間のイベントの開催回数はどの程度になるのか。
- (団体) 「みくりや飯」としてのイベントの開催は秋口に 1 回を予定しており、そのほかのイベントへのお声がけを頂いており、それを含めて 3~4 回と考えている。
- (委員) その開催の形の場合、同イベントの 4 回の開催を予定している現在の事業収支予算書の内容と一致しないのでは。収支予算書に書かれた「4 回の開催」と説明のあった「1 回の開催+α」とでは違うのでは。
- (団体) 「みくりや飯」のイベントとしては 10 月の 1 回のみが決まっている状況で、他は未定となっている。
- (委員) 今後のスケジュールで HP、WEB 通販ページの作成とあるが、その予算は計上されていない。自分達で作る考えか。
- (団体) メンバーで協力して作成する。
- (委員) 事業収支予算書の収入の部分で、参加店舗からの参加料がイベント 4 回分ある形で計上されているが、先程の説明のとおり 1 回のイベント開催+αだとすると、収支の内容も変わってきてしまうと思うので、もう少し事業収支予算書が精査されたものであった方がよかった。
- (委員) 市の担当課である観光交流課が、この事業にどのような支援・協働をする予定なのか。
- (団体) チラシの配布や、報道機関への投げ掛けなど、周知広報の部分で主に協力したいと考えている。また、実際のイベント開催にあたっての出役・協力も予定している。

- (7) 事業名: 「富士の麓の美味しいレシピ おうちでいただきます」情報発信事業〔2 年目〕
- 団体名: 富士の麓の美味しいレシピ 御殿場プロジェクトチーム
- 市の担当課: 観光交流課

〔質疑応答〕

- (委員) 1 年間でチャンネル登録者数が 90 人、再生回数が平均 220 回ということだが、この事業による参加店舗などへの効果は見えてきているか。
- (団体) まだ具体的には見えてきていない状況。コロナ禍の中にあって、参加していただく料理人の方が大変忙しく、最初は店舗からも利用者に動画の紹介をいただくことも想定していたが、なかなかそこまでできなかった。ただ、SNS などを通じてこの動画を見ていただいた方が反応をいただくなど、一人でも興味を持ていただいたり、料理人の方のエネルギーに繋がるようなコメントをいただいたりすることも大切だと考え、あまり数字を追いかけないようにしている。
- (委員) 令和 2 年度の事業も、今回の提案事業も、動画編集に大半の費用を費やしている形になっている。全ての動画を拝見させてもらったが、動画の縦横やレシピ紹介の有無などが動画毎に違っていたり、動画の題名の付け方などをとつても、広く皆に見ていただくようなものになっていないのではと感じる。プロにこれだけの費用を支払って動画を作っていたのに、この出来はどうなのかと思う。
- (団体) 動画等の作成については、マニュアルを作っけて定めてはいるが、撮影は基本的に料理人の方にお任せしてしまっている状況で、御指摘のことはもっともだと思うが、なかなか難しい。いただいた御意見も踏まえて、場合によっては撮影・編集などについて別の方法も検

討していきたいと思う。

- (委員) 仕事がお忙しい中での対応で難しい部分もあるかと思うが、音声聞き取りづらかったり、途切れてしまっている部分があるのは気になった。動画の作成について、料理人の方たちと話しあったりする機会はあったのか。団体としてしっかりした動画になるように支援していく形にすれば、より見やすいものができるのでは。
- (団体) 現状では料理人の方たちが多忙であり、できていない。一つの方法としては、必ずカメラマンを入れて、合わせて動画編集も行ってもらう、という形ができれば良いとは考えている。
- (委員) 説明を伺っていると、プロジェクトとして活動しているのではなく、発表者が一人で頑張っているような印象を受ける。参加いただいている料理人の方々も自発的に参加されていると信じて団体として見るようにしてきたが、発表からはそうは読み取れなかった。もっと団体として活動された方がより良いものとなるのでは。
- (団体) 当初の計画ではより広く料理人の方に参加いただくことを考えていたが、料理人同士の関係もあり、上手いかなかった。ただ、構成員からは他の料理人の紹介などで協力をいただいている。
- (委員) 団体としての活動としていくのであれば、もう少しメンバー同士で協力し、発表者に過度な負担がかからないようにしていくべきだと思う。

(8) 事業名: 家族を守るママ防災〔2年目〕

団体名: 御殿場ママ活情報局

市の担当課: 危機管理課

〔質疑応答〕

- (委員) 事業収支予算書の収入にワークショップ売り上げを計上しているが、この内容は何か。
- (団体) 7月10日開催の地域イベントでの防災ポーチ、お菓子リュックの作成などを想定している。
- (委員) 市の担当課である危機管理課には、なかなかこれまでこのような事業はなかったと思うので、地域に活動を広く知っていただくように努めていただきたい。
- (担当課) はい。現在、市HPに今回作成した配布物等の掲載などを検討しており、各種イベント等についても情報発信に努めていきたいと考えている。
- (委員) 冊子等の作成・検討に当たって、団体内でワークショップ等を通じてメンバーで検討したり意見を聞いたりすることはあるか。
- (団体) 冊子にまとめた情報等については、団体の基盤となっているSNSで都度共有しており、その度に多くの意見を伺い、反映している。また今回の内容を踏まえていただいた意見を反映させ、ブラッシュアップしていく。

- (9) 事業名： 御殿場市における生物多様性の調査・啓発活動〔3年目〕
団体名： 特定非営利活動法人 土に還る木 森づくりの会
市の担当課： 環境課

〔質疑応答〕

- (委員) 御殿場市内のビオトープについて、説明の中で地図を見せていただいたが、どの程度の数あるのか。
- (担当課) 市内のビオトープについて、市も団体も全ては把握しきれていないが、そのうち把握している10件について調査を実施する予定。
- (委員) 事業収支予算書の支出のうち、消耗品費の中で椎茸の駒うち体験用駒菌代があるが、これは販売等をする予定があるのか。
- (団体) 販売はしない。榎木は伐採業者から購入し、それに駒菌を入れる形になる。
- (委員) 事業を進めていく中で、子どもたちへの教育の視点を取り入れていくことが重要だと考えている。イベントには子どもたちが参加している様子があるが、新型コロナウイルス感染症の影響や、実施にあたって配慮されたことなどはあるか。
- (団体) 静岡県のかし環境部から新型コロナウイルス感染症に関する屋外での活動に対する指針が出ており、それに準拠して活動を行なっている(検温、間隔を開けるなど)。
- (委員) ビオトープについて、今後学習の場などとして活用していくと思うが、今後、他の場所に広げていくような計画はあるか。
- (団体) 市内業者の敷地内に計画あり。また市内病院敷地でも作る動きがある。
- (委員) イベント等についてあまり告知がなかったように感じたが、令和2年度の参加状況はどうだったのか。
- (担当課) 新型コロナウイルス感染症の影響により、イベント自体を中止した事例も多かった。しっかり開催できたのは11月のあきぞら自然体験フェスタのみとなった。ただし、こちらの三角状況は30名の定員数を超えて応募があり、大変好評であった。

- (10) 事業名： 黒澤明監督と御殿場市〔2年目〕
団体名： 御殿場黒澤明学術会
市の担当課： 魅力発信課

〔質疑応答〕

- (委員) 令和2年度事業でも喫茶店での寄せ書き集めを行い、お店に来るお客さんも増えたとのことだったが、この事業に対しての実績と、作られた寄せ書きノートの活用方法についてどのように考えているのか。
- (担当課) 件数などは確認していないが、看板の設置後など、県外からのお客さんも来ていただけており、見て知ることができるものになっているのは良かったと思う。寄せ書き等については、令和3年度にはパネル展なども予定しており、展示するなど、多くの方に興味・関心を持ってもらうためのツールとして利用を検討していきたいと考えている。
- (委員) 看板の設置について、今後の管理について伺いたい。

- (担当課) 看板は素材など極力もつものを選んではいりますが、経年劣化はあると思うので、市民協働型まちづくり事業としての実施が終わったとしても、団体として存続し、維持管理できる形にしていきたいと考えている。看板が朽ちたら終わりではなく、しっかりと維持・補修できる体制を作っていきたい。
- (委員) 令和 2 年度に設置した看板について、設置後 1 か月ほど後に見に行ったら、既に記載を修正した跡が見受けられた。看板の内容については、よく精査してから対応されたい。
- (担当課) 確認して対応する。

- (11) 事業名: 御殿場の魅力発掘事業〔2 年目〕
団体名: 御殿場の魅力発掘隊
市の担当課: 魅力発信課

〔質疑応答〕

- (委員) 令和 2 年度事業の予定では 3 つのテーマに絞って取り組みを進めていくことになっていたと思うが、今年度はその 3 つ全てにしっかりと取り組むことができたのか。
- (担当課) 当初計画の 3 テーマについては、牛渚の雨乞い祭りのドローン撮影、黒澤明監督のロケ地、JR 御殿場駅乙女口など、取り組めたと考えている。
- (委員) 牛渚の雨乞い祭りの情報以外は、あまり聞くことができなかったもので、もう少し周知等に注力してほしいと感じた。ベストな形は、魅力を伝えて、まちが盛り上がっていくことだと思うので、動画を撮影して終わりという形にはしないほしい。
- (団体) 情報発信という面では YouTube を通じて動画による魅力発信をすることはできたと思うが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、なかなか人を集める形での周知・情報発信が難しかった。
- (委員) 2 年目の事業提案を見ると、テーマも多岐に渡っており、良いと感じた。ただし、補助金事業で、市の予算を使って行うものなので、市民の皆さんに届けるということが重要になってくと思う。事業として良い方向に進んできていると思うので、例えば市の広報誌に記事を提供するなど、目に見える形で、発信の方法も工夫して実施していただきたいと思う。
- (団体) はい。
- (委員) 実際に興味を持って来てくれる人もいると思うが、安全性などは問題ないか。
- (団体) 問題はなく、実際に見に行くこともできる状態になっている。今後も新型コロナウイルス感染症対策を進めながらも、情報を市民にうまく伝える方法を工夫するなど、いただいた御意見などを踏まえて対応していきたい。

3 選考会 [15:30 ~19:30]

〔内容〕

提案会でのプレゼンテーション及び質疑応答の状況、申請書の内容、及び提案会を受けての採点結果(順位付)等を踏まえて、各事業の内容について協議し、補助金交付の可否や補助金額について決定。

はじめの一步事業 3事業は、いずれも満額で採択とした。

市民提案事業 11事業は、満額で採択 6事業、減額して採択 3事業、不採択 2事業となった。

【はじめの一步事業】

- (1) 事業名: 観光ボランティアガイド養成講座
団体名: 御殿場ボランティアガイド協会
市の担当課: 観光交流課
申請額: 50,000 円

〔コメント(審査用紙自由記載欄)〕

- ・「市民参加による御殿場の魅力発信プロジェクト」としてコンソーシアムをつくり、魅力発信課が中心となって複数の協働事業を束ねて実施してはどうか。
- ・富士山世界遺産センター研修実施は、50,000 円の補助金事業として実施するのは重いように思います、御殿場市と自衛隊の講義はいらないと思います。
- ・魅力的な取り組みだと思います。講義の内容ですが、ジャンルが偏っているかなと思います。
- ・本市が真に観光都市となるためには常設の観光ボランティア団体が必要だと思うので、頑張って活動を継続してください。
- ・「観光ボランティアガイドを養成し、御殿場市の魅力を発信する」ことは新しい発想で、とても良い取り組みだと思います。養成講座の内容も充実していると感じます。今後、講座受講後のフォロー体制も考えていくと更に発展していくのではないかと思います。
- ・4 月から第 1 回がスタートする計画だが募集は「大丈夫か。この講座でどの程度のレベルに持っていくのか。観光パンフレットを見れば足りるものではなく、ガイドならではの専門性やスキルを育成してほしい。
- ・観光の発展には必要だと思う。今後、協働⇒自主運営となると良い。
- ・アフターコロナの経済・観光振興は非常に重要であり、事業目的は市の施策と同じ方向を向いたものだと思う。御殿場の魅力を拡散するための具体的な取り組み(ボランティアをどうやって増やしていくか等)がポイントになってくると思う。
- ・全講座出席が必須のようですが、参加者が多く集まればいいですね。(募集人数が分かりませんでした…)講座終了後の活動も注視していきたいと思います。
- ・富士宮市の富士山世界遺産センター研修の妥当性に疑問がある。富士山だけが御殿場市の観光資源ではないと思います。
- ・御殿場で観光案内をできるガイドが少ないので、是非とも実施していただきたい。
- ・コロナ後、観光客の満足度を大いに上げてくださることを期待しています。

〔協議内容〕

- (委員) 御殿場の観光ボランティアガイドを育てる事業ということだが、事業計画では 6 月に富士宮の富士山世界遺産センターへ研修に行くことになっており、この実施に係る交通費が事業費の大半を占める形になっている。果たして、御殿場のボランティアガイドを育成する目的で、富士宮市の世界遺産センターに研修に行くことが適切なのかと感じる。
- (事務局) 事前に団体・担当課に回答を伺っているので読み上げるが、「当講座では、実施研修として富士山樹空の森の天空シアター、富士山御殿場口登山道の起点である新橋浅間神社に伺い、富士山御殿場口について学習する予定ですが、人に喜ばれる観光ガイドを行う上では、富士山全体の歴史や文化的背景等の知識が必要となります。また、初年度である今回の講座でしっかりとした知識や技術を習得し、今後はガイド協会内でそれらを引き継いでより良いものとしていきたいと考えております。このことから、御殿場で学んだことに対する補強及び更なる知識の習得のため、静岡県世界遺産センターでも研修を行いたいものです。」とのこと。
- (委員) 趣旨は理解できるが、御殿場市内でもできるかと思う。
- (委員) 50,000 円の補助金事業で、50,000 円の交通費をかけて世界遺産センターへ研修に行く形になっている。このため、より規模を大きく実施するとなった時にこういった事業を企画しても良いのではないかと思う。
- (委員) 実際に世界遺産センターに行ったことがあるが、見て知ることは大切だと思う。金額については確かに 50,000 円の補助金で交通費が 50,000 円と目立ってしまっているが…
- (委員) この事業については、個人的に団体からの相談を受けたことがある。この事業を企画した背景としては、実際に今、御殿場で観光ボランティアガイドとして成立しているのが、「NPO 富士山・御殿場ガイド 御厨の風」、その中でも数名のみで、なかなかガイドができる方が少ないといった状況だと伺っている。このため、新たに組織をつくり、若い方を中心に富士山や地域のことについて知っていただくなど人材育成を進めていくことが、御殿場の観光誘致の面で役立つことだと考えているとのこと。今回の事業は、4 月から 7 月にかけて 5 回行われる講座の 1 つが富士宮市の世界遺産センターでの研修になるため、将来的に観光ボランティアガイドが増えていくことを見込んだうえであれば、費用については問題のない数字と考える。
- (委員) この事業にどのぐらいの人数が参加できるのか。毎月のように講座を開催するということで、なかなか観光ボランティアガイドになることが出来そうな方が、この講座全てに参加いただくのはなかなか厳しいように感じる。
- (牛山教授) 皆さんが良い点数をつけたため、この事業がはじめての一步事業では採点結果が 1 番になっているのだと思う。特段マイナスとなるような面、例えば事業の実施可能性が全くないだとか、全く意味のない事業内容であれば議論の余地があるが…
- (委員) 「はじめての一步事業」ということもあるので、可能性を信じていただきたいと思う。これだけの事業計画をつくっていただき、委員の評価も高い。収支予算の内容として、交通費が目立つことが気になるのも分かるが、採択しても良いと考える。
- (委員) せっかくの良い企画なので、毎回の参加を必須とするのではなく、もっと参加しやすいようにしても良いのではないかと思う。絶対に参加できるメンバーが少数いるよりも、より広く、多くのメンバーが参加できる形の方が良いと思う。

〔選考結果〕

交付の可否： 可

補助金額： 50,000 円（満額）

(2) 事業名： ベンチャースポーツフェスタの開催

団体名： ブールスポーツ御殿場

市の担当課： 市民スポーツ課

申請額： 50,000 円

〔コメント(審査用紙自由記載欄)〕

- ・スポーツの発展を目的とした事業は今まで応募があまりなかったので、健康面から考えても良い事業だと思います。
- ・ニーズがどのくらいあるか分からないが、良い取り組みだと思う。広報や情報発信が肝心。しっかり宣伝して盛り上げてください。
- ・健康増進や世代間交流、スポーツのまちづくりなど、公益性は高いと思うので、体験会を契機に定着してほしい。
- ・「スポールブル」について全く知らなかったです、世代や性別に関わらず楽しめるスポーツを紹介し、広めることで、何らかのスポーツを始める市民が増えることは、大きな成果だと思います。団体の力を最大限に生かして、市と共同でスポーツ振興に取り組んでいただければと考えています。
- ・単にベンチャースポーツの普及に留まらず、日本一のチームや日本代表の育成を目指すという企画が具体的で面白いが、達成のための道筋がもっと見えるとよい。支出の約7割が広報関係だが、市の広報を利用するなど工夫をされたい。
- ・市民協働をすることで周知力は上がる。コロナ禍出どこまで人を集めてできるか、できない場合どうオンライン配信をするのか。
- ・オリンピック・パラリンピックの開催やアフターコロナを契機として、市民の健康増進とともに、市の活性化にもつなげていける事業だと思う。実際問題として、いかに人を取り込めるかが重要だと思うので、創意工夫を凝らした事業展開ができれば、効果が出る事業だと思う。
- ・数年前にペタンクを広めたいと市体育協会へ加盟申請を希望した団体があったが、その後の活動実態がない。夢は大きい方が良いが、普及活動が先ではないでしょうか。
- ・御殿場がスポールブルの中心地となるよう継続して活動していただきたい。
- ・より多くの市民が楽しめるスポーツとなるよう期待しています。

〔協議内容〕

- (委員) 今回、ベンチャースポーツというくくりで提案されてきているが、具体的にはどのようなものが含まれているのか。団体が取り組むブルスポーツが主にはなると思うが…
- (委員) 市体育協会で、過去にペタンクの競技団体が加入したいという話があったが、組織として整っていなかったこともあり、話が流れてしまったことがある。
- (委員) 事業収支予算で、自己資金として協賛企業の募集を掲げているが、なかなか難しいとは思う。また、印刷製本費としてチラシ印刷・全戸配布を計画しているが、こういった部分を例えば

市の広報紙を使うなど、協賛を得られなかった場合の PR の方法などをアドバイスしても良いのかと思う。

(事務局) この点については事前に団体・担当課に回答をいただいているが、企業協賛金については、既に確保しているとのこと。また、印刷製本費についても、見積もりを取った上での数値となっているとのこと。

〔選考結果〕

交付の可否： 可

補助金額： 50,000 円（満額）

(3) 事業名： 流産・死産・新生児死・中絶で子を亡くした方へのサポート事業
～マロウお空の天使を想う会～

団体名： 御殿場助産師会

市の担当課： 健康推進課

申請額： 50,000 円

〔コメント(審査用紙自由記載欄)〕

- ・とても大事な事業だと思うが、需要がどれだけあるのか見えない。経験者は集まることを欲しているのか。まずは相談から手掛けて、集まる場を求めているかエビデンスを得てから行ってはどうか。個人的には集まる場も重要だが、相談機能を重視すべきと考える。
- ・多くの参加者を望むことができるか少し心配です。でも最初の年はたくさんの人が参加しなくても、翌年から数が増えていけばよいのかな…
- ・活動実績はなしとのことですが、今回を機に頑張ってスタートを切ってほしいと思います。優しい地域となるように救済とそのため連携が生まれることを期待しています。
- ・社会的ニーズは高いと思う。行政、クリニック、助産師会、福祉関係者など協力団体を増やして効果的に事業継続していただきたい。
- ・市内に事業の対象となる方がどの程度いるのか分かりませんが、団体の活動を通じて自助グループなどが発足し、拡大することにより、心身ともに救われる方が増えることを願っています。対象者は多くないと思われますので、長く継続するための方策を団体と市が協働して考える必要があると感じました。
- ・居場所作りは必要であり、期待するところも大きい事業であると思うが、扱いの仕方によっては非常に重いテーマである。
- ・病院や市だけでは限界があることだからこそ必要性を感じた。市と協働でやるからこそ、社会教育課の託児も利用して、より多くの人が参加できるように整えてほしい。
- ・とてもデリケートなテーマであるが、現代の課題であり、市としても取り組んでいかなければならないものだと思う。うまく協働できれば課題解決に繋げていけるものだと思うので、活動の展開に期待したい。
- ・大切な事業だと思います。
- ・全国的に見ても、数少ない取り組みだと思います。こうしたデリケートな面をケアしている、ケアでき

る街として継続して事業を実施していただければ良いと思います。相談専用電話等あれば更に良いと思います。(予算的に難しいですが…)

・助産師さんならではの心のケアを期待しています。

〔協議内容〕

(委員) 先日の新聞記事で、静岡市で同じような取り組みが行われているとあった。御殿場市でも素晴らしい取り組みとなることを期待したい。

(委員) 掲げているテーマが、行政だけでも団体だけで対応が難しいデリケートなものだと思うので、協働事業として相互が連携して取り組んでいくことは重要で、まずははじめの一步事業で「こういった取り組みがある」ということを市民へ周知していき、将来的には市民提案事業として実施していくことも考えていくのであれば、非常に有意義な取り組みになると思う。

〔選考結果〕

交付の可否: 可

補助金額: 50,000 円 (満額)

【市民提案事業】

(1) 事業名: 子育て中のお母さんの居場所づくり「いっぽ」事業〔1 年目〕

団体名: Motherese(マザリーズ)

市の担当課: 子育て支援課(子ども家庭センター)

申請額: 300,000 円

〔コメント(審査用紙自由記載欄)〕

- ・大切な事業ですので、是非頑張っていただきたいと思います。
- ・コロナ禍出産前・産後の母親の活動範囲が狭くなる中、ストレス解消、いやしの場の提供になると思います。
- ・女性、ママさんたちが輝くまちづくりにつなげてください。期待しています。
- ・多くの講師を招いて事業を実施することで、参加者が楽しめる工夫がされている。継続事業を期待します。
- ・子育てに悩む母親の居場所は多い方が良いと思う。実績もあり期待できる事業と感じる。
- ・コロナ禍の今、とても必要とされている事業。協働をすることにより、会場が無料(玉穂支所)、参加費が無料になるなど参加しやすい環境に。
- ・活動経験が長く、活動の内容もニーズがあり、より素晴らしい活動を続けてほしいと思います。
- ・はじめの一步事業で対応してはどうか。
- ・子育て中のお母さんからニーズがあり、手助けとなる事業であると感じます。「ベビーネイチャープログラム」は委託するということでしたが、単に YMCA の事業とならないよう、役割をしっかりとっていただきたいと思います。
- ・気軽に参加できる居場所作りに向けて頑張ってください。

- ・社会的ニーズは高い。市としても取り組むべき課題。団体としての実績もある。協働により、課題解決に繋げていってほしい。子ども家庭センターだけでなく、健康推進課等との連携も。潜在的なニーズの掘り起こし(困っている人が参加しやすい環境づくり)を。
- ・人によって状況や必要性が異なるので、母親が通う場所が色々あり、自分で選択することができるのは、とても重要なことだと思います。団体の強みを生かして、お母さんも子供も楽しめる居場所が更に従事したものになることを期待しています。
- ・実績十分の団体が、行政だけでは不十分な領域を上手く補っていると感じる。ZOOM の利用など、今の時代背景に即した手法も評価できる。

〔協議内容〕

- (牛山教授) プログラム代 30,000 円について、この事業の主となる活動は何なのか。市民活動の場合、自分たちの活動で支えるという性格を持っているから、「委託料」というのは最小限となるべきで、団体が主体となって事業を行うべき。
- (委員) ベビーネイチャープログラムは YMCA 東山荘が行う事業で、自然体験教室のようなプログラムを提供するもの。
- (委員) 講座・教室を全て委託して行うのではなく、団体が主導して事業を行って欲しい。
- (牛山教授) デザイン費 50,000 円、チラシデザイン代の内容は何なのか。
- (委員) 事業の周知等のためのチラシの作成に要する経費では。行うのであれば、しっかりと複数の見積りをとって対応してほしい。

〔選考結果〕

交付の可否: 可
補助金額: 300,000 円 (満額)

- (2) 事業名: 親と子の居場所作り事業〔1 年目〕
団体名: 笑まいの場
市の担当課: 子育て支援課(子ども家庭センター)
申請額: 300,000 円

〔コメント(審査用紙自由記載欄)〕

- ・人との関りで大きな輪ができ、団体がより発展できるとより大きな効果が生まれると思います。
- ・質問にもあったが、講座の収支がやや不明。次年度やるならそのあたりを詳しく説明してほしい。
- ・親をリラックスさせる居場所作りのように感じられるが、親子で体験できる講座でしょうか。
- ・親の元気、お子さんの幸せ両方大切に。実現されると良いと思います。
- ・会場がーか所だけなので、もう少し会場を増やし、多くの方が参加できる取り組みにした方が良い。
- ・時代とともに学校へ行けない子どもが増えている中、必要な事業であると思う。
- ・団体の目的はとても必要な事業。講座は対象が広く、だれでも参加できるのは良いことだが、「親と子の居場所作り」としては疑問が残る。親子向けの講座等は考えていないのか。
- ・深刻な課題です。母親が強くならなければならないための事業、頑張ってもらいたいと思います。

- ・御殿場市には適応指導教室はないのか。なければ、まず行政が対応すべき。それを拠点としてこうした団体が活動できるとよい。
- ・多くの人に効果が及ぶように PR に努めてほしいと思います。「元気な親」は、積極的に情報収集する方が多いでしょうから情報が伝わりやすいと思いますが、本当に必要としている方に伝わるように、広報に努めてほしいです。
- ・SDGs を意識した実践ありがとうございます。不要校という親にとっても子にとっても切実な問題に正面から向き合う取り組みは素晴らしいです。
- ・社会的ニーズは高い。「子ども」ではなく「親」に視点をあてているのは新鮮だが、提案事業の事業効果はどうか？
- ・学校へ行きにくい子など、子どもの居場所作りに関し、今後の展開がもう少し具体的になっていると事業が発展していくのではないかと思います。事業名が「親と子の居場所作り」であるのに、対象が子どもでないのが少し残念に思いました。
- ・就学時以上の年齢になると、子どもへの支援に目が行きがちだが、親へのアプローチという点で、どのような成果が生まれるのか楽しみ。

〔協議内容〕

- （委員） この事業は全て神山の「くすの木」で行われるのか。その場合、講座等の開催に係る会場使用料はかからないのか。
- （委員） 事業は全てくすの木で行うと伺っている。団体の事務室として施設の一室を有料で借用しており、通常の講座はその事務室で行われるため、団体の経常的な経費にあたることから、今回の事業に要する経費としては計上されていない。
- （牛山教授） 消耗品費の内訳について、飲み物代が 6,000 円×6 本としているが、極端に高額では。
- （事務局） ミネラルを含んだ飲み物で、希釈して飲用するものがあるそうだが、それが 1 本 6,000 円するとの説明をいただいている。
- （委員） 事業計画としては盛りだくさんの内容になっているが、団体としてはできたばかりで不安が残る。まずははじめの一步事業でやっていただく形でも良かったのでは。また、市の担当課と協働する形にできているのか不明瞭に感じる。
- （事務局） 団体と担当課になった子育て支援課とは、今回初めて繋がりができたところ。
- （委員） 団体や事業計画のテーマとしては、不登校のお子さんやその家族の支援や居場所づくりになると思うが、「まずは子どもに寄り添うお母さんに元気になってもらうための講座を開催する」という部分がどうしても引っかかる。
- （委員） 難しいのは、団体の目的と事業計画の目的が合致しないこと。ストレートに「理由があって学校に行っていない子ども達の居場所づくり」ではだめだったのか。
- （事務局） 将来的にはそのような場となることを目指したいと考えていると伺っているが、まずは保護者を対象にした事業を展開したい考えとのこと。
- （委員） 事業提案の中で、実際に最初は子ども達の居場所づくりにも取り組んだが、それが思うように効果が上がらなかったため、保護者の方に目を向けてみたとの説明があった。
- （委員） 実際に子どものことで悩んでいるような保護者の方が、こういった講座に参加するのは疑問がある。
- （委員） 質疑応答の中で、この講座の対象となる方について質問したが、不登校のお子さんを抱え

る保護者だけが対象ではなく、子育てに関わっている方ならどなたでも参加できるとの回答があった。このことを考えると、そもそも趣旨が違うのではと強く感じていて、協働事業としてこのまま進めてしまってよいのか疑問が残る。

(委員) アロマオイルなどについても、あまり小さいお子さんがいるような家庭では使うことが好ましくないものもある。消耗品の内容についても、精査が必要だと思う。

(委員) このような悩みを抱えている方がなかなか参加しにくいのでは、というのはそうだと思う。例えば個別に相談に乗ってくれるような窓口になるなど、別の視点の取り組みも必要になってくるのでは。

(委員) この団体の体制で、提案いただいた事業内容を実施できるのか疑問が残る。また、「糸掛け曼荼羅」について、スピリチュアルな面も含んでいると思う。

(委員) 事業の規模として、記念品代と会場使用料程度が妥当だと思う。令和 3 年度事業ははじめての一步事業としてやっていただく形でも良いのでは。

(牛山教授) 市民提案事業からはじめての一步事業に切り替えるのであれば、事業計画書を再度練り直して提出していただく必要があると思う。

しかし、改めて課題認識と団体の設立目的に対して、今回提案いただいている事業計画の目指すべきところが上手く合致していないように思われる。不登校児対策への成果が見えない。このような事業内容で、担当課は何かあった場合の責任を取ることができるのか。

(委員) 事業内容に「子ども」が絡んでくるのであればまた変わると思うが、直接つながらないように見える。

(事務局) 委員の議論を踏まえ、現状の課題に書いてある「学校へ行けない子たちが増えている」ということと事業内容が合致しない、また団体の設立の経緯や目的とも合致しないということで、もう少し事業内容を練り直していただくという提案をさせていただき、今年度は不採択にさせていただきます形でよろしいか。

(委員) それでは、本事業につきましては議論のとおり計画を練り直していただき、次年度以降再度申請いただくよう、不採択としてよろしいか。

(委員) 異議なし。

〔選考結果〕

交付の可否: 不可

(3) 事業名: みくりや蕎麦 アフターコロナの活用推進事業〔1 年目〕

団体名: チーム FRF

市の担当課: 農政課

申請額: 297,000 円

〔コメント(審査用紙自由記載欄)〕

- ・多方面に波及する事業なので、是非成果を上げてほしいと思います。
- ・商品開発後の販売者は同団体がやるのか気になった。

- ・遊休農地の有効活用と、地元産そば粉を使った本当の意味での「みくりやそば」を提供する事業に繋げてほしいです。
- ・新しい事業で、その先の発展性もあると思います。楽しみです。
- ・みくりやそばが地域活性化を担うモノとなることを期待します。
- ・農業とツーリズムのマッチングは面白い、農家が経済性を考慮したとき生産、加工、流通までをシステム化しないと難しい中、参考となる取り組みである。
- ・農地の再生が市民の住み良い環境、市のPR等の波及効果を感じる。情報発信をして市内外にPRしてもらいたい。少し手探りな感じが強く、不安もある。
- ・荒廃農地問題解決のひとつの方法、成功すると良いと思います。活気あふれる御殿場になると良いですね。
- ・はじめの一步事業で対応してはどうか。
- ・発展性のある事業であると感じます。御殿場が蕎麦のまちとして一層盛り上がることに期待します。
- ・耕作放棄地対策～景観形成～地場産品育成～情報発信迄考えた波及効果の高い事業だと思います。
- ・荒廃農地は深刻な課題。「みくりやそば」と地産地消、商工・観光振興にもつながる提案。アフターコロナを見据え、協働事業による相乗効果が期待できる。
- ・事業内容や今後のスケジュールが具体的であり、かなり細かく先のことについても考えた上で事業を始めようとしていることが伝わってきました。「みくりやそば・乾麺」楽しみにしています。
- ・耕作放棄地×みくりやそばという、農業と行政が抱える問題やコンテンツを組み合わせ、相乗効果が伺える良い取り組みだと感じた。シナリオは非常に魅力的なので、アフターコロナを見据え、まずは一年目の活動を通し、模索してほしい。

〔協議内容〕

- (牛山教授) 営利事業(営利性)との接点、区別をどう考えるのか。私の考えでは違和感がある。前段の課題認識としての耕作放棄地対策という点は良く、その視点で事業を組み立ててもらえれば良かったと思うが、蕎麦の商品開発に係る経費が 240,000 円となっている。これを認めてしまうと、今後同様の事業も全て認めなければならないことになってしまうのでは。
- (委員) 耕作放棄地対策は既に農政課の事業として補助等による支援が行われている。今回、商品開発を主軸に据えて事業提案をいただいているが、商品開発が上手く行ったとき、では今後どうやって、誰が販売していくのか、というところで疑問が残る。
- (委員) 地元産の蕎麦をつくり、店舗等に使っていただくというのは良いとは思いますが、それを販売する、商売にってしまうというのはどうか。
- (委員) 既に農協でも御殿場産の蕎麦粉による乾麺製造は行っている。事業計画を見ると、この事業で使うのは既に収穫され、粉になっているもの。前段の耕作放棄地対策の部分は良いとは思いますが、補助金の使途が商品開発を行うためのものになってしまっているのはどうかと思う。
- (牛山教授) 民間の企業であれば、自己資金で商品開発を行うところ、それが今回の事業提案に交じってしまっていると思う。確かに皆さんが言うように、耕作放棄地を何とかした、困っている農家の方が関わっていくことができるようにする、という組み立てをするとそのようにも見えるが…商品開発ではなく、その準備の部分、周知するための講座や学び合う場を設けるなどの事業に使っていただければと思うが、乾麺製造を主軸として、それを市内に配るような形にして

しまうと、他の業者や農協への影響はどうか。

（委員） 担当課がこの事業内容で受けてしまっている時点で、ここで不採択としてしまうのも難しいとも思うが、事業内容が補助金の趣旨に合致しないのであれば、そのようにしなければならないと思う。乾麺製造の部分だけ削るとしても、それが提案事業の軸になってしまっているため、その場合事業の実施自体ができないのでは。

（委員） 参考資料としてつけられたプレスリリースなどを見ると、団体と市で事業を実施していく方針は固まっているように感じる。団体の説明からは、耕作放棄地対策を前に進めていった時のその先を皆に見せるために乾麺製造を行いたいと受け取った。その趣旨は分かるが、教授の指摘にもあったように、商業ベースに乗せることを主とするのではなく耕作放棄地対策を進めていくことを主として組み立てるべきだったと思う。

（委員） 御殿場産のそば粉について事業者で紹介もされているが、安定供給が難しいために使い難いというところが多かった。農協についても、今は御殿場産の蕎麦を使った製品の在庫も追いついていないので話に乗ってこなかったのでは。「市民活動団体」としての活動の目的・実体が見えてこない。

（牛山教授） 商品開発に 240,000 円かけて乾麺を作ったとして、それを試食して上手く行ったら製品化するというのでは、ただのマーケティングで、商品化するための前段階となる部分は非営利活動ではないのでは。企業の投資の部分を税金でやる形が適当なのか。

営利事業との分岐点は非常に難しいが、今回の提案事業のように、補助金の大半を商品開発に注ぎ込む形は見たことがなく、違和感が強い。

（事務局） 【担当課への聞き取り内容の説明】

担当課としては、この事業は「ブランド化・高付加価値化など、農業の価値を下げないための取り組み」と考えており、この事業を通じて耕作放棄地になってしまっているところで農業をする方が増え、循環していく形にするために必要だと考えている。営利に繋がるかと言えばそうかもしれないが、農業的な施策を進めていくためには、当然、そういった視点も必要になると考えている。

この補助金がなかったとしても、団体と担当課で連携して事業に取り組んでいくつもりだが、事業で計画しているタグを作るなどといった部分までは届かないかもしれない。

（事務局） みくりやそばのブランド価値・付加価値を高めて、それによって今、耕作放棄地になってしまっているところでのそばづくりに繋げ、景観対策や情報発信にも取り組みたい、というのがこの事業の趣旨だったと思う。担当課としては耕作放棄地対策等を進めるためのツールとして商品開発があるという考えだと思う。一方で、協議会の議論としては、商品開発したものが販売に繋がることが考えられ、市民協働型まちづくり事業補助金が営利目的に繋がることが懸念している。

（委員） 農業の経済性を考えると、生産・加工・流通を見ていかないと、普通は儲からない。今回の事業によって他の農家の方たちに方法を示し、上手く儲けに繋がることが示すモデルになると思うが、最終的に自分たちの利益を重視していくとなると、この「市民協働型まちづくり事業補助金」にはそぐわないのでは。

（委員） 今回、乾麺製造を除いた少額で 1 年間やっていただくよりも、計画を練り直して、次年度に満額で事業を実施してほしい気持ちもある。

(牛山教授) この事業が広く御殿場市民の公共的な利益になるイメージが湧かない。事業者としてそばは作るのだから、それをブランド化して広めていく部分の事業のみ認める形が分かりやすいのでは。事業者がそれぞれ営利を追求するとしても、この補助金で御殿場ブランドを高めるための共通のタグなどを作るのを応援する、という形では。

(事務局) それでは、採択する場合は乾麺製造に関する経費を除く 90,000 円を上限とし、減額した補助金額での事業実施については団体、担当課及び事務局で調整することについて、事務局で預からせていただいてよいか。

(委員) 異議なし。

〔選考結果〕

交付の可否: 可

補助金額: 90,000 円 (一部減額)

〔補助の条件〕

・乾麺製造に要する経費 240,000 円は認めない。

〔団体・担当課及び事務局での調整結果〕

・令和 3 年度事業提案は取下げとする。

(4) 事業名: 御殿場・小山フードバンクプロジェクト [1 年目]

団体名: 御殿場・小山フードバンク協議会 御殿場支部

市の担当課: 社会福祉課

申請額: 231,000 円

〔コメント(審査用紙自由記載欄)〕

- ・フードロス削減にもつながる事業としても期待しています。
- ・周知されている「フードバンクふじのくに」との繋がり、協力できないものかと思った。(同じような事業では?)
- ・コロナ禍の影響による困窮世帯を支援する事業で、素晴らしいと思います。
- ・食育、社会貢献に繋がる事業だと思います。
- ・県でなく地元でできるなら、もう少し賞味期限が短くても協力しやすいと思う。
- ・必要な事業である。
- ・認知度を上げて、本当に困窮している世帯への支援に繋がるように努力してほしい。相談に行けないような隠れた困窮世帯はどう把握するのか。
- ・フードバンク事業が広がりつつあります。申請書の記載の中で、団体の経緯がよく分からなかったです。
- ・市民への事業の浸透度合いが事業効果に大きく影響してくると思います。広報頑張ってください。
- ・フードロス対策の面からも重要なので、ぜひ取り組みに参加する団体の輪を広げて困窮者支援を推進していただきたい。

- ・コロナ禍という時勢もあり、事業の必要性は高い。提案者の説明にもあったとおり、情報の周知(どのように、どの程度)は色々検討する部分があると思う。市との協働により、適切かつ効果のある事業実施をしてほしい。協力会員・企業の拡大をどのように進めていくか。
- ・団体と行政の役割分担がはっきりしている点や課題分析がしっかりされている点など、課題解決の実現に向け、よく検討されていると感じました。
- ・団体の基盤と行政との関りがもともとしっかりしているので、細かい心配はいらないと思う。継続した取組が求められていくので、認知度を高めた後の方向性について、一年目のうちに計画していったほしい。

〔協議内容〕

- (委員) 静岡県「フードバンクふじのくに」は報道等で聞いたことがあって、今回の事業提案はその御殿場市版かと思ったが、どうも別団体とのこと。事業内容が同じフードバンク事業であれば、協力してやった方がよいのでは。
- (委員) 「フードバンクふじのくに」は、一度県が集約してから各地に配分しているので、配るのに2か月ほどかかると聞いている。地元の困っている方に、早く対応する趣旨なのだと思う。
- (委員) 県が行っている事業は、市役所などの拠点に回収ボックスを設置し、そこに持ってきていただく方式になっている。今回提案いただいている事業は地元事業者等に協力を仰ぎながら行っており、県との住み分けはできていると思うが、既に今年度団体が立ち上がり、行われている事業なので、補助金が欲しいために事業提案をいただいているような印象は受ける。
- (委員) 補助金がなくても実施できると思われるものについては、支援しない方針で行くのか。
- (委員) 行政と協働することでより良い事業内容となるのであればよいと思うが…
- (委員) 事業提案の中で、既に実施している事業ではあるが、まだ広く周知されてはいないため、広報・啓発に力を入れていきたいと説明があった。
- (委員) 事業にあたっての重要性が低い結果報告書や感謝状などについては、やり方を見直した方がよいと思った。
- (委員) 事業でお配りする食品等については全て寄附で賄っており、それを考えれば結果報告書や感謝状についても必要なものなのでは。協力する団体についても、老人会などであれば、感謝状を受けることが活動の励みに繋がるのと思う。
- (牛山教授) 市民活動団体の活動において、補助金で感謝状を出すこと自体、あまり例を見たことがない。これはこの事業からではなく、団体が独自に行うべきものとして、一部減額としても良いのでは。
- (委員) 提案会でも指摘したが、やはり感謝状を出すのであれば、毎回お渡しするのではなく、長年御協力いただいた団体等にお渡しすべきものだと思う。
- (委員) 議論の結果を踏まえて、感謝状に要する経費は認めない形で交付を可として良いか。
- (委員) 意義なし。

〔選考結果〕

交付の可否: 可

補助金額: 216,000 円 (一部減額)

〔補助の条件〕

- ・記念品(感謝状)に要する経費 15,000 円は認めない。

(5) 事業名: 令和の世によみがえる御殿場馬車鉄道復元プロジェクト〔1 年目〕

団体名: 御殿場馬車鉄道研究会

市の担当課: 社会教育課

申請額: 300,000 円

〔コメント(審査用紙自由記載欄)〕

- ・「市民参加による御殿場の魅力発信プロジェクト」としてコンソーシアムをつくり、魅力発信課が中心となって複数の協働事業を束ねて実施してはどうか。
- ・馬車鉄道について全く知りませんでした、文化財として残され市民に伝わると良いです。
- ・クラウドファンディングで今後もやっていけるのでは?とも思う。
- ・インタビュー動画を記録保存などに留まらず、小中学校の出前授業として活用することなどに期待します。
- ・御殿場の数少ない歴史を掘り起こす事業であり、まちづくりとしてふさわしい。資料を集め、記録に残していくことは大変な事業である。車両の復元がされたとき、それをどう生かしていくのか期待する。
- ・残しておくべき資料や情報を保存し、残しておく必要がある。社会教育課としっかりタッグを組んでいってほしい。
- ・令和 4、5 年度は全く同じ事業内容だと思いますが、中身に違いがあるのでしょうか。
- ・自主財源の確保(クラウドファンディングなど)をはじめ、団体の体制や事業計画など、既に確立しているものがあるように感じます。御殿場市の文化的な財産となることを期待します。
- ・地域の歴史を埋もれさせずに継承していくのは大切なことだと思います。郷土愛醸成のために頑張ってください。
- ・市史として情報を残すことは大事なことだと思う。ツアー等の計画、事業効果が得られるのか?
- ・コロナ禍により講座開催の見通しは難しいですが、新しい生活様式を守り、少人数でも開催できると良いと思いました。特に学校での開催により、子ども達に知ってもらうのはとても意義があると感じます。
- ・“文化財”として行政としても重要な存在だと思う、団体の専門性を生かして有意義な調査を行い、幅広い啓発活動をしてほしい。

〔協議内容〕

- (委員) クラウドファンディングが成立して、今年中に馬車鉄道の車両の復元を行うとのことだが、本当にできるのか。
- (委員) 先程当該クラウドファンディングのサイトを確認したが、目標額の 1,500,000 円を超えて 1,800,000 円程度になっていた。
- (牛山教授) 記念品代 40,000 円の内容は何なのか。特定の参加者にただお土産を持たせるための記念品代は補助金の使途としてどうか。また、収支予算書の書き方については、補助対象経費と

補助対象外経費を分けて書くことについて、事務局として対応してほしい。

(委員) 運用内規では、記念品代の支出自体は問題ないとしているが、事務局としてはどうとらえているのか。

(事務局) 申請書提出時には、「活動協力者等へのノベルティに要する経費 50,000 円」として記載があり、講演会等のイベントに参加された方に対する安価なノベルティの配布と考え、了承していたが、当日差し替え後の内容では「講演会協力者配布用記念品 (@1,000 円 × 40 人) 40,000 円」と変更されていた。基本的に記念品の考え方は、イベントへの参加者など、不特定多数に配布する安価なものを想定している。

(委員) 今回の内容については、特定の協力者に対する報酬的な性質をもつものであり、本来、この補助金の制度には合わず、事務局側の誤りだったとして認めないとする形が良いのでは。

〔選考結果〕

交付の可否: 可

補助金額: 260,000 円 (一部減額)

〔補助の条件〕

・特定の協力者に対する記念品に関する経費 40,000 円は認めない

- (6) 事業名: 富士山厨房みくりや飯 [1 年目]
団体名: 富士山厨房みくりや飯実行委員会
市の担当課: 観光交流課
申請額: 300,000 円

〔コメント(審査用紙自由記載欄)〕

- ・「市民参加による御殿場の食の魅力発信プロジェクト」としてコンソーシアムをつくり、観光交流課が中心となって複数の協働事業を束ねて実施してはどうか。
- ・御殿場が元気になるイベントですので、是非頑張ってください。
- ・会計不明瞭だが、企画は良いので、その部分をしっかりしてもらいたい。
- ・年 4 回のイベントの告知(チラシ配布)の仕方に予算的に無理があると思います。
- ・飲食業の衰退に歯止めをかける仕組みなので、是非実施していただきたい。
- ・コロナ禍の中で飲食店が生き残ることができるよう、担当課は頑張してほしい。広報などで周知させる方法などないでしょうか。
- ・飲食店が協力してイベントを開催することは意義があり、市民にとっても楽しいイベントになると思うが、観光、地域活性化など次のステップも期待する。
- ・コロナ禍で苦しい飲食店の販促や PR につながる良い事業。販売方法などの改善を市、観光、地域経済の活性化につながるよう盛り上げてほしい。収支の内容に疑問が残る。
- ・楽しそうなイベントです。多くの方が参加できる事業となると良いと思います。
- ・コロナ禍という厳しい状況の中で積極的にアクションを起こしていることに敬意を表します。地域ぐるみで盛り上がっていくことを期待しています。

- ・市内飲食店の市民等への PR、地域活性化につながるものだと思う、課題を改善し、協働によって事業の充実化を図ってもらいたい。収支予算の精査。
- ・御殿場の飲食店を盛り上げる方法はいくつあると思うので、状況が変わりコロナが落ち着いた後も継続して事業を実施する仕組みの構築を期待しています。
- ・今年度の実施結果で、市民ニーズがあることは分かった。その時の課題を踏まえ、行政が介入することでどのように改善できるか楽しみにしています。

〔協議内容〕

- (事務局) 別事業における議論の結果を踏まえ、営利事業への繋がりを考えると、事業の趣旨としては地域を盛り上げることがあるが、その方法として地域の店舗や生産者など、もとより営利に繋がる部分に事業の主眼がある。委員の意見、アドバイザーの指摘を踏まえると、どうしても営利に繋がるものだと思うので、論点を整理いただいた上で意見をいただきたい。
(地域振興ということで認められるのか、営利に繋がるということで認められないのか)
- (委員) 2月に実際に行われた事業では、ドライブスルー形式でお弁当を購入する方式となっており、それを見ると営利目的だと捉えられても仕方がないと考える一方で、コロナ禍が明けた後には、市民が広く参加できるイベントになるとも考えられる。
- (委員) 店舗ごとにテイクアウト対応という方法もある中で、飲食店が協力して一堂に集まって開催するということに意味があり、それは営利目的ではなく、公共的な意味があるのではないかなと思う。
- (委員) 集まって行うことには意味があると思うが、公共的な課題の解決よりも参加店舗の利益の部分が重視されているように感じる。いかに地域の活性化に繋げていくかの視点を持つかが重要だと思うが、質疑応答では上手く説明できていないと感じた。事業自体は良いものだと思うが、商売の延長で連携して行うのであれば、自分たちの中で完結して行うべきだと思う。
- (委員) 実際に店舗がコロナウイルス感染症の影響を大きく受ける中で、何らかの手段によって事業を支援することは必要だと感じたが…
- (委員) 2月の事業実施にあたって、団体側の持ち出しが多くあったような説明はなかったと思う。
- (委員) 実際にはボランティアで参加したり、店舗が協力するために会合を持ったりして事業を進めていると思う。確かに営利事業に繋がる部分はあるかもしれないが、この事業によって元気になってもらいたいと思うし、元気をもらった方も多いのでは。また、このお弁当の販売だけではなく、マルシェ等の参加も企画しており、この活動を通じて市民の元気に還元されていくのではないかな。
- (牛山教授) 「営利事業だが、公共的な目的にもアプローチするので良い」とするのは間違いだと思う。本当にこういった形での支援を行政が行うことができるのか。
また、この「実行委員会」は、実績やその内容を見ると、「市民活動団体」と言えるのかも疑問があり、市民協働型まちづくり事業補助金での支援が本当に適切なのかな。
- (委員) 「市民活動」とは何かということになると思うが、受益者は誰かということを考えたときに、この活動の受益者は市民ではなく、飲食店にあり、確かに地域の活性化にはつながると思うが、不適切だと思う。
- (委員) 事業計画と収支予算の不一致について、発表された方も理解していなかったのだと思う。1回の計画となっているイベントを4回行う予算になっているなど、不明瞭だと思う。

〔選考結果〕

交付の可否： 不可

- (7) 事業名： 「富士の麓の美味しいレシピ おうちでいただきます」情報発信事業〔2 年目〕
団体名： 富士の麓の美味しいレシピ 御殿場プロジェクトチーム
市の担当課： 観光交流課
申請額： 300,000 円

〔コメント(審査用紙自由記載欄)〕

- ・「市民参加による御殿場の食の魅力発信プロジェクト」としてコンソーシアムをつくり、観光交流課が中心となって複数の協働事業を束ねて実施してはどうか。
- ・より多くの方が動画を御覧になり、生かしていただくよう工夫をお願いします。2 年目は更なるバージョンを期待します。
- ・構成員にやや無理があるのでは。全体の予算を少なめにして、厳選した動画として 1～2 本作ってみては。
- ・動画の内容はともかく、周囲の雑音が大きかったり、料理人の声が聞きにくいなど、工夫が必要と感じました。
- ・初年度の事業が目立たなく残念であったが、今年度再度挑戦していただき、PR に専念してほしい。料理人が忙しいのはこの事業に関係ない。
- ・コロナ禍で当初の見込みと違った面が見られるが、手法等を見直して進めていってほしい。
- ・1 年でチャンネル登録者が 90 人、平均 220 回の再生で、どのような効果があったのか？動画の縦横が揃っていなかったり、レシピが説明に合ったりなかったり、補助金で編集してもらっているのに、統一性がなく見にくい。Instagram を初めてどのくらい伸びるのか？具体的な目標は？昨年度からの発展が感じられない。
- ・現在置かれている状況の中での活動で、大変だと思います。動画配信による活動は限られた活動になってしまうと思います。
- ・前年度の反省点を踏まえて、今年度事業の展開を計画されている点は評価できますが、団体としての結束力をより深めていただいた上で今年度事業を実施していただけると良いと思います。
- ・コロナはまだしばらく続くことが想定されるので、令和 2 年度の実績を基に新たな活動を実施してもらいたいと思いました。YouTube を見るきっかけになる仕掛けが大事だと思います。その点からもフリーペーパー作成を楽しみにしています。

〔協議内容〕

- (委員) 料理人の方が忙しく、動画撮影等の対応が難しいとの説明があった。料理人の方があまり乗り気ではなく、無理にお願いして動画を作っている形であれば、継続するのであれば改善する必要があると思う。
- (委員) 事務局以外は全て料理人や生産者で構成されており、実際の事務関係は事務局の担当者が全て行っていると思われる。そうすると、市民活動団体というのは疑問がある。もう少し事務局の担当者をサポートするメンバーがいなければ、動画の質も上がっていかないと思う。

動画製作や編集に要する経費が本当に妥当なのか分からないが、質を上げていくのであれば、本数を少し絞って対応しても良いのでは。

（委員） 提案では動画の視聴回数が伸びなかったことも反省として触れられていて、見直して対応していくと説明があったが…

（委員） 支出内容で、Instagram に要する経費を計上しているが、Instagram の利用自体は無料で可能なのではないか。

（委員） やはり、団体として自分たちで動画を作っているのではなく、委託して行っているのだと思う。事務局と事業の委託先との関係はどうなっているのか。

（牛山教授） 改めてみると、この団体の活動は本当に市民活動と言えるのか。

（委員） 広報・周知の手段としての Instagram の選択にも疑問がある。情報を届けたい人が必ずしも利用しているとは言えないし、もっと別の SNS のネットワークを使うことなどもできるのでは。

（委員） 事務局の方が全て対応するのではなく、構成員がちゃんと集まって、話し合っって事業を進めるのが普通の団体だと思う。

（牛山教授） 市民の方の役に立つ目立った成果がなければ次年度の事業は認めないなど、条件を付すべきだと思う。

（委員） 料理人も疲れている、というのであれば、例えば 1 年間は事業実施を取り止めて、事業内容を精査するという方法もあると思う。

（委員） 皆様から御意見があったとおり、Instagram に要する経費は認めないとして、団体としてもうちちょっと協力体制を整えるように求めるとともに、今後の事業継続のためには市民生活の向上と、団体・担当課の掲げた目標について成果が必要となることを条件として付すこととして良いか。

（委員） 異議なし。

〔選考結果〕

交付の可否： 可

補助金額： 272,000 円（一部減額）

〔補助の条件〕

- ・広告宣伝費のうち、Instagram(一式)製作等に要する経費 27,500 円は認めない。
- ・今後の事業継続のためには市民生活の向上と、団体・担当課の掲げた目標について成果を出すことを求めるものとする。

〔団体・担当課及び事務局での調整結果〕

- ・令和 3 年度事業提案は取下げとする。

- (8) 事業名： 家族を守るママ防災〔2 年目〕
団体名： 御殿場ママ活情報局
市の担当課： 危機管理課
申請額： 300,000 円

〔コメント(審査用紙自由記載欄)〕

- ・期待しています。
- ・しっかり実績も確認できた。2 年目も頑張ってもらいたい。
- ・災害が多発している現状にマッチした事業である。
- ・防災意識を植え付けることは非常に難しいと思います。継続事業を期待しています。
- ・1 年間実施された成果が伺える。広く市民の防災意識の高揚につながることを期待する。
- ・昨年参加させてもらいました。事業に参加して目からうろこでした。いかに日頃災害について考えていないか思い知らされました。そんな人が多くなる事業だと思います。
- ・市の担当課としっかり連携できているように感じます。地域防災組織とも今後連携できるような取り組みを考えていただきたいと思います。
- ・コロナ禍で思うように事業が実施できないこともあると思いますが、防災の分野に今まで手薄だった子どもや女性の目線が加わったのは、とても重要なことだと思うので、長く継続していけるように、ノウハウを蓄積してもらいたいです。

〔協議内容〕 特になし

〔選考結果〕

- 交付の可否： 可
補助金額： 300,000 円（満額）

- (9) 事業名： 御殿場市における生物多様性の調査・啓発活動〔3 年目〕
団体名： 特定非営利活動法人 土に還る木 森づくりの会
市の担当課： 環境課
申請額： 300,000 円

〔コメント(審査用紙自由記載欄)〕

- ・今後の継続も可能とのこと、嬉しく思います。より多くの市民が参加できますよう計画してください。
- ・市内のビオトープを中心とした生態調査の具体的な地域、内容、時期が明示されていない。
- ・子ども達が自然に触れる機会を創出することで、SDGs の環境分野に通じるので実施していただきたい。
- ・子ども達に環境教育の場を提供することは重要だと思います。コロナ禍でイベントの実施の仕方が難しいところもあるが、継続して行ってほしい。
- ・御殿場の素晴らしい環境を守り伝えていくのは大事。各シーズンに体験学習ができるのは素晴らしい。ビオトープマップ等を使って自然環境教育に力を入れられるよう、行政の発信力を使って広く体

験学習に参加してもらえようにしてほしい。

- ・今年度は市内全小学校に事業を拡大するようです。昨年までは中学生、高校生を対象とした活動だったので、更に活動分野を広げてください。
- ・子ども達にとっては屋外でのイベントによる経験、学びはとても大切であり、特にコロナ禍で制限がある中、かなりのイベントが中止となることが多いので、「自然体験フェスタ(仮)」は少人数でも実施できることを願っています。

〔協議内容〕

(委員) 事業計画や教室等を見ると、環境教育を進めていくことはよく分かるし良いと思うが、どうしても冊子を作りたい意図が見えるのはどうかと思う。

(委員) 1年目と比べると上手く協働事業として進められていると思うが、成果が限られた人に向いてしまっており、また市民に広く知っていただけているかどうかは疑問がある。

〔選考結果〕

交付の可否: 可

補助金額: 300,000 円 (満額)

(10) 事業名: 黒澤明監督と御殿場市〔2年目〕

団体名: 御殿場黒澤明学会

市の担当課: 魅力発信課

申請額: 279,000 円

〔コメント(審査用紙自由記載欄)〕

- ・「市民参加による御殿場の魅力発信プロジェクト」としてコンソーシアムをつくり、魅力発信課が中心となって複数の協働事業を束ねて実施してはどうか。
- ・黒澤作品のロケ地、御殿場の発信に期待しています。
- ・パネル展など新しい取り組み楽しみです。
- ・長期的な視点で必要な事業である。海外観光客の誘致に向け、継続していただければ。
- ・地域の活性化や観光資源に繋げてほしい。
- ・黒澤ファンは多くいると思うので、二の岡マップや看板作成により来訪者が増えることが期待できる。
- ・ポスターやパネルはどこに展示する予定ですか。昨年同様ふじざくらを考えているのですか。
- ・黒澤ロケ地を観光ルートの一つとして認知してもらい、看板の設置された場所へ訪れてもらえば、PR効果も大きいと思います。寄せ書きノートを事業の一つとして仕掛けるなら、活用方法をしっかりと健闘したほうが良いと感じました。

〔協議内容〕

(委員) 看板以外にも講演会、パネル展と、発想が活発になっており、パネルに偏っていた前年度よりも良くなっていると思う。

(委員) 提案会での説明で、看板が立ったことにより観光客が来たとの言葉があったが、疑問がある。

(委員) 看板が立ってすぐの時期に記載内容が修正されていた。内容については再度確認いただきたい。

(委員) 看板の維持管理が重要だと思う。改めて確認いただくようお願いしたい。

(委員) 支出内容については、見積もりを取るなど改めて精査していただきたい。

〔選考結果〕

交付の可否: 可

補助金額: 279,000 円 (満額)

〔交付の条件〕

- ・今後の事業継続のためには市民生活の向上と、団体・担当課の掲げた目標について成果を出すことを求めるものとする。

〔団体都合による取下げの申し出(4/1 付)〕

- ・令和3年度事業提案は取下げとする。

(11) 事業名: 御殿場の魅力発信事業〔2年目〕

団体名: 御殿場の魅力発信隊

市の担当課: 魅力発信課

申請額: 300,000 円

〔コメント(審査用紙自由記載欄)〕

- ・「市民参加による御殿場の魅力発信プロジェクト」としてコンソーシアムをつくり、魅力発信課が中心となって複数の協働事業を束ねて実施してはどうか。
- ・1年目と比較してより充実した内容になっており、期待できると思いました。
- ・ホームページの動画は、音声による説明がなく、状況が伝わりにくい。ドローンで空撮してみました、の印象ですね。
- ・情報発信としては乏しいが、努力が見える。歴史のハックルと観光誘致に期待します。
- ・テーマが増えたので、それをどうまとめて興味を持たせるようにするのか期待しています。ドローンの映像は綺麗でした。良く撮れていました。もっとコンパクトにまとまっているともっと良い。
- ・当初計画を超えた発信がされ、ドローンの活用など動画は良かったが、内容の説明や発信方法など、見る人が分かりやすい工夫をされたい。
- ・色々な魅力を市内外に発信し、市のPRにつながると思う。たくさんの実績としてHPをつくっているのも、どうこのページを市民などに見てもらえるようになるのか考えていただきたい。
- ・御殿場にはたくさんの魅力があることを改めて知りました。昨年度より興味深いテーマに取り組むようなので、是非参加してみたいです。

- ・「御殿場の魅力」につながるテーマの位置付けに色々と工夫をされていて、長い目で見る必要がある事業であると感じました。今後の展開を楽しみにしています。
- ・新しい分野に加え、1年目の成果をもっとPRできるような活動を行っていただきたい。

〔協議内容〕

- (委員) 様々な分・テーマに目を向けており、1年目よりも良くなっていると思うが、出口が見えない。自己満足だけで終わってしまいそうな印象を受けるし、これを調べるのが市民の生活や公共的な課題の解決に繋がるかと言われれば、まだ弱いと思う。情報発信の方法も、調べて撮ったらただ公開するだけではなく、自分から売り込みに行く、広報ごてんばの特集記事で広く知らせるような動きがあっても良いのでは。
- (委員) 御殿場フィルムコミッションもこの団体に関わっているのだと思う。
- (委員) 個人の興味としてこういったものを調べるのも良いかとは思いますが、それが市民に向けた取り組みになるように頑張してほしい。
- (委員) 市の担当課の協力の仕方も難しいと思う。どのような協力の仕方が考えられるのか…
- (委員) 取材して、魅力を発掘して、どうするのが重要。単に市民に知ってもらうだけではなく、外に発信して、御殿場がおもしろそうだと思ってもらうことが大切だと思う。

〔選考結果〕

交付の可否: 可

補助金額: 300,000 円 (満額)

〔交付の条件〕

- ・今後の事業継続のためには市民生活の向上と、団体・担当課の掲げた目標について成果を出すことを求めるものとする。